



「衣」・「食」・「住」の「住」を学ぶ学生たち

広島工業大学専門学校 建築系
学科長 田中 卓

大震災による「住」の被害

2011年3月11日14時46分、宮城県牡鹿半島沖を震源とした東北地方太平洋沖地震は、日本の観測史上最大のマグニチュード9.0を記録し、震源域は岩手県沖から茨城県沖までの広範囲に及んだ。この地震により波高10m以上の大津波が発生し、東北地方の太平洋沿岸部に壊滅的な被害をもたらした。

また、地震や津波による建築物の被害は、全壊11万戸超、半壊7万戸超といった甚大な被害となっている。これらの被災地では多くの人々が避難所生活を送っておられるが、着の身着のまま避難をした人がほとんどで、「衣」・「食」・「住」を一瞬にして奪われた形となった。

我々が生活する上で最低限必要な「衣」・「食」・「住」。日本国内外からの支援により「衣」「食」は震災直後に比べると物資も行き渡ってきた感があるが、「住」の分野は未だほとんど手付かずなのが現状である。しかも「住」分野においては年単位の時間が必要になってくる。

本校の建築学科の学生たちは住宅を含む全ての建築物に興味を持ち、「住」分野を学んでいる。地震被害と併せて津波被害からも守られる建築物について、これから多くのことを学ばなくてはならない。

「住」を基礎から分かりやすく

建築学科に入学してくる学生たちは、工業高校出身の学生もいれば、普通科、商業科、総合学科出身の学生も多い。

また、建築以外の職種を経験した社会経験者も少なくない。

入学直後から高レベルの授業内容を展開しても学生たちは混乱するだけである。生活に必要な「衣」・「食」・「住」の「住」を基礎から分かりやすく、かつ興味深く学べるよう心掛けている。

テキストに書いてある文章やグラフを見ただけでは理解できないことも、自分の目や肌で確かめることで理解できることがある。例えば、木材の種類や性質はテキストに一覧表でまとめているが、それぞれの木材の重さや硬さ、匂いなどは自分で触れてみないと分からない。いろいろな種類の木材を学生たちに触れさせることで木の性質や感触を理解させている。

また、ある時は、学校の外が教室になることもある。例えば「建築計画」の授業で美術館の計画を学ぶときは、実際に美術館へ学生を連れて行き、動線計画・消火設備・照明方法・色彩計画等を説明している。また、普段は入ることのできない空調機械室や荷解き室等の見学も行っている。

このように自分の目や肌で確認することで、いっそうの理解や興味を持つことができ、「住」を基礎から楽しく学ぶことができる。

「住」に関わる資格取得

世の中「資格社会」と言われ続けているが、建築業界も例外ではなく、さまざまな資格が要求されている。在学中に複数の資格を取得できるよう、資格特別講座を開講し多くの学生が受講している。この資格特別講座と

は放課後に開講される科目で、曜日ごとに各種の資格対策授業を行っている。学生は目標資格を取得するため、資格特別講座が終わった後も遅くまで学校に残って勉強をしている。

昨年度の実績は、2級建築施工管理技術検定19名、インテリアコーディネーター2名、福祉住環境コーディネーター2級3名・3級2名、宅地建物取引主任者1名の合格者数であった。



インテリアコーディネーター資格を取得した女子学生

「住」のスペシャリスト資格

建築学科卒業後、1年課程の建築士専攻科に進学する学生が半数以上いるが、ここでは二級建築士の取得を目指している。

学科試験が7月初旬に行われるため、3月から授業を開始しているが、2月末には計算力の向上を図るため、数学の補習授業も全員を対象に行っている。近年は携帯電話の電卓機能を利用して計算をする学生が多くおり、手計算のやり方を忘れていたことしばしばである。この補習授業では、自分の弱点を早めに見つけさせるところに大きな意義がある。

学科試験は「計画」・「法規」・「構



二級建築士の製図試験対策授業

造」・「施工」の4科目があり、全ての科目で基準点以上をとらないと不合格になる。よって、3月から7月までの4ヶ月間は朝から夕方までこの4科目を繰り返し学習している。また、本試験と同じ時間配分で模擬試験も行っているが、今年度は4回実施した。

学科試験合格者のみが2次試験である製図試験の受験ができる。この製図試験対策授業には「1日1枚描き終えるまで帰れない」という専攻科特有のルールを設けている。午前9時から描き始め、どんなに遅くなくても仕上がるまでは帰れない。勿論、担当教員も最後の学生が描き上げるまでは何時になろうと最後まで指導をしている。

学科の繰り返し学習、そして製図が仕上がるまで帰れないというルール。これらを徹底してきた結果、専攻科における二級建築士合格者数は中国・四国・九州地方の専門学校でNo1の数字を出している。

住宅の設計・監理を行うには二級建築士の資格は必須で、まさに「住」分野のスペシャリスト資格である。

昨年度の実績は以下の通りである。
学科試験26名中24名合格
製図試験24名中21名合格
最終合格率80.8%(全国平均24.3%)

「住」空間を設計する卒業生

本校を卒業し、株式会社マキ建築設計事務所に勤務する清永操代さんは昨年一級建築士の資格を取得した。以下は清永さんのコメントである。

『学生時代は、同じ目標を持っている人たちと出会ったことで、興味や視野が広範囲に広がりました。社会に出てからは現実と憧れのギャップに悩み、努力が報われないことも多くなりましたが、仕事が好きなので好きなことに携われる喜びがあります。一級建築士を取得し、今まで以上に緊張感と責任感を持って挑んでいます。資格取得は家族、会社の人、友人が喜んでくれました。』



一級建築士を取得した卒業生の清永さん

上記の清永さん以外に、昨年度は本校卒業生の中から多くの一級建築士が誕生した。

昨年1年間で10人以上の一級建築士が誕生した全国の大学・専門学校が84校公表されたが、そのうち専門学校は6校であった。東京・大阪といった都市部の専門学校が挙げられる中で、地方の専門学校は本校のみである。

二級建築士だけでなく、多くの一級建築士が誕生する専門学校としてこれからも成長していきたい。

おわりに

私自身、高校、大学で建築を学んできたが(いずれも鶴学園!)、多くの先生方から「快適な住空間とは」、「環境に配慮した設計とは」、「地震に強い建築物とは」等の内容の講義を受けてきた。これから先も快適で安全な「住」空間を実現する手法を伝えていきたいが、今回の大震災から学ぶべきことが幾つも見えてきた。

目先の事象だけを対処するのではなく、100年先、1000年先というスパンで「住」空間を考えていかなければならない。

